

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

第62回新潟県公民館大会・佐渡大会を終えて 佐渡市・土屋 貴伸

4.5

- 2 トピックス 関プロ理事会と「つくば」大会の開催
- 3 視点 「まちづくりと公民館」 燕市・高桑紀美江
- 3 ひろば 「小さなお祭り」 湯沢町・田村 武雄
- 6 実践記録シリーズ 「子どもの居場所づくりを通じた地域（まち）づくり」 柏崎市・須田 貴子
- 7 サークル交流 「元気と笑顔を皆様に…」(三条市) / 「楽しみながらゆっくりと」(阿賀町)
- 7 素顔拝見 大平 卓真さん(長岡市) / 伊藤 徳光さん(刈羽村)
- 8 お元気ですか 新潟市・近藤 敬さん
- 8 惠贈資料紹介



中世歴史絵巻「中秋の名月・板額はんがくの宴うたげ」

表紙解説

歴史書「吾妻鑑」に百発百中の弓の名手として名が残る女武将「板額御前はんがくごぜん」の顕彰イベント。市民が武者行列や野外演劇を行います。

関プロ理事会と「つくば」大会の開催

関プロ理事会

平成23年度の第1回関東甲信越静公民館連絡協議会(関プロ)理事会が7月22日(金)に茨城県つくば市で開催され、本県の理事である大塚美光会長(上越市)と田原理事事務局長が参加しました。

この理事会は水戸市で5月に開催予定でしたが、東日本大震災のため延期されていました。茨城県は地震の被災県ですので、開催が危ぶまれていましたが、会場、期日等を変更することで開催することになりました。

理事会では開催に至った経過と理由など質問、意見が相次ぎました。特に、
①開催地、開催期日、大会の内容を大きく変更しているがどのような経過であったか。
②大会の概要そのものを変更することは、地元の実行委員会にゆだねるべきではなく臨時の理事会を開くべきだった。

③事前に加盟11都県のアンケートをとったが、集計等は公開しその後の意見集約

をして欲しかった。
④次期開催地の長野と次々期開催地の新潟は、最近、地震が起きた所であり、災害発生時の大会開催については地元任せるのではなく理事会の判断を優先させることを確認したい。

例年の理事会と違って、意見が相次いで終了時間を超えて協議が行われました。最後に、本大会は、変則的な開催であるが、開催するからには成果のあるものにするべく、全面的に地元実行委員会に協力して大会を成功させることを全員で確認して終了しました。

関プロ「つくば」大会

理事会で修正提示された今年度の関東プロ大会は次のとおり開催されます。

- 1 期日 平成23年11月18日(金)
- 2 時間 12:30~16:30
- 3 会場 茨城県つくば市「ノバホール」

*つくばエクスプレス「つくば駅」徒歩3分 駅のすぐ隣です。



ノバホール

秋葉原駅つくば駅 快速45分 1150円

4

①開会行事
アトラクション

②歓迎講演
野口不二子(野口雨情生家資料館館長)

③シンポジウム
シンポジスト

○長谷川幸介(茨城大学准教授)

○金藤ふゆ子(常磐大学准教授)

○大川文一(茨城公連元会長)

5

④閉会行事
次期開催地(長野)あいさつ

○川上美智子(茨城キリスト教大学教授)
○井口百合香(NPO暮らしの企画舎代表)
○コディネーター
儘田茂樹(茨城社教委連絡協議会副会長)

④閉会行事
次期開催地(長野)あいさつ
大会の開催期日が11月中旬になり新潟は寒い時期になりますが、今回は日帰りが可能な日程になりました。2年後に南魚沼市、湯沢町で開催予定の新潟関プロの運営等の参考にするためにも多数の方から参加をお願いします。
なお、詳しい大会開催要項は各市町村の中央公民館にお届けしてあります。

問い合わせは
各市町村中央公民館
県公連事務局まで
(事務局長 田原)

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

まちづくりと公民館

新潟県社会教育協会 会員 高桑紀美江



平成の大合併後の公民館はどうも元気がないように見える。当然、職員も人事異動によってよく知らない地域を担当し、戸惑っている場合もあるだろう。合併後のまちづくりの主導は企画政策関係係部に任されることが多いが、そこで、公民館はどんな役割を果たしているのだろうか。

いまでもなく公民館は、地域住民の「出会い」と「学び」の場であり、「結ぶ」場でもある。公民館という学習施設は単なる施設提供や窓口業務ではなく、利用者や学習者と、その要求を受け止めて豊かに発展させる力量を持つ職員との協力の力で創造され

るものである。まちづくり主管課とは少し違った角度から住民自治の力を育て、まちづくりを進める場でもある。

このように公民館職員の役割は重要だが、以前に比べ異動サイクルが早く、相変わらず日々の仕事に追われているようだ。でも、ちょっとがんばって、利用者や学習者、住民とゆっくり接する時間を持とう。そしてどんな要求や課題を持っていくのかを探ろう。地域へも積極的に出かけて、ネットワークづくりをしよう。机に向かっていただけでは変わらない。まちづくりの人材を育て、仕掛けるのは公民館である。

H O T N E W S 掲 示 板

後期の月報編集内容決まる 「公民館月報」第1回編集委員会

後期を中心とした紙面構成等を検討する編集委員会が8月8日(月)に新潟市中央公民館で開催されました。特集記事は下記の予定になりました。

月・号	テーマ、執筆者	備考
10月号	県大会事例発表 柳橋祐介 (新潟市)	県大会終了後の記録集を予算上発行出来なかったため「月報」に掲載して会員等に紹介する。
11月号	県大会事例発表 小島治夫 (糸魚川市)	
12月号	県大会事例発表 星野修美 (魚沼市)	
1月号	下越地区担当	
2月号	新潟市担当	
3月号	全公連セミナー参加レポート	参加者から選抜

なお、会議で出た主な意見は下記のとおりです。

- ①700号記念号の紙面構成は大変良かった。カラー印刷も良かったが予算上毎回出来ないのは残念。
- ②「お元気ですか」のコーナーは評判良い。しばらく続けて(最低1年は)みたら良い。

第2回の編集委員会は来年2月に開催予定です。

ひろば

「小さなお祭り」

湯沢町公民館運営審議会委員 田村 武雄

私の地区(旧村)の大きな村祭りは、戦前の青年団、戦後の青年会の活動の休止とともに無くなってしまった。近年は観光イベント的な「夏祭り」「冬期スノーカーニバル」など年々盛況を続けていく中、それでも湯沢町には地域民による古式ゆかしい祭りや小規模な祭りが6箇所ほど残っている。

私らの町内(180戸)の小さな祭りもその一つである。昭和38年ごろ、当時の町内会長が地域民と一緒に興じたものであり、現在まで50年近く続いている。毎年8月14日に開催し、お盆の帰省客に民宿のお客様も加わり、稚児行列や子ども若衆神輿に、中学生のお囃子の音色奏でる山車と続く。その後、夕方から夜に掛けて歩行者天国が設けら

れ、町内住民による手作り夜店が立ち並び、抽選会やビンゴゲーム、甚句の掛け声響く盆踊りと賑やかになって行く。

私たちが、お墓参りやお盆行事で先祖の供養をすることで、逆に先祖が地域の未永い繁栄を見守ってくれている。

湯沢町に、三・一一震災で避難されて来られた大勢の福島県の方々も、この小さなお祭りに参加されることで、少しでも「平穏」を取り戻して欲しいと願っています。



大会・佐渡大会を終えて

作成するのを忘れていたことに気づきました。そして、残業確定。懇親会急遽不参加となりました。ガーン、楽しみにしてたのに…いつの日かきっと。

そんなこんなで大会を迎えることができました。何とか間に合ったあ～!!

今大会は、会場が離島で船の時間が決められた中で事例発表など盛りだくさんの内容ということもあり、大会そのものにバタバタ感があり、参加者の皆様に多大なご迷惑をおかけしたのではないかと心配しております。大会終了後、宿泊し余裕をもって佐渡を堪能できたらもっとも有意義な大会になったのではないかと考えています。

さて、開会式においては、大塚会長から表彰状及び記念品が永年勤続者12名のうち当日ご出席の4名の方に贈呈されました。開会式終了後、基調講演が行われ「社会・地域を切り拓く公民館をめざして一東日本大震災を経験したこの社会に向きあうために」をテーマに東北大学大学院 准教授 石井山竜平 先生による講演があり、参加者は熱心に聞き入っていました。今回の東日本大震災において、公民館が単なる避難所としてだけでなく、地域住民の心の拠り所としても大きな役割を果たしているところではありますが、そして、今後の強い新しいまちづくり、ひとづくりを進めるにあたり、公民館が地域の拠点の一つとしてその機能を最大限に発揮することが期待されており、地域の課題解決のために必要不可欠な社会教育施設であることが再認識されたのではいでしょうか。

昼食後のアトラクションでは、「鬼舞つぶろさし保存会」によります県指定無形文化財「つぶろさし」が披露され、子孫繁栄や豊作を祈願する舞に魅了されていました。ここでハプニング発生！県公連から用意していただいたアトラクション謝礼金額が違っており、急遽田原事務局長のポケットマネーから立て替えていただきました。ありがとうございました。



つぶろさし①



つぶろさし②

午後の事例発表は、司会者、下越教育事務所社会教育課 武石由紀 副参事の進行の下、「糸魚川市の公民館体制の見直しと能生地域地区公民館」糸魚川市教育委員会生涯学習課能生生涯学習係長

小島治夫 副参事、「魚沼市における公民館活動の現状と課題～地区公民館活動の振興策を中心として～」魚沼市中央公民館 星野修美 館長、「早寝早起き朝ごはん推進事業の活動報告とこれからの取り組み事例について」新潟市教育委員会生涯学習センター・中央公民館 棚橋祐介 副主査からそれぞれの具体的な実践事例に基づいた発表が行われ、活発な質疑・意見交換がなされました。助言者の下越教育事務所社会教育課 里山政信 課長からまとめと今後の方向づけをいただきました。

閉会式では、佐渡市公民館 三國豊 館長から次期開催地であります糸魚川市中央公民館 田原秀夫 館長に大会旗が引き継がれた後、次期開催地代表あいさつがなされ、引き続いて大会副実行委員長・佐渡市佐和田地区公民館 本間攻 館長から閉式のことばがあり大会を無事終了することができました。



次期開催地あいさつ



副実行委員長閉会あいさつ

今大会を終えて、これまでの公民館活動の良さを大切にし、公民館事業実施にあたり新しい視点でより充実・発展させていくことが必要とってきている中で、公民館活動に携わる私たちは、住民一人一人が生き生きと生活し幸せを味わい楽しむため、活力ある地域コミュニティの再生を通して新たな公民館活動を切り拓く第一歩となる、ピンチをチャンスに変えられる大会になったのではないのでしょうか。

《最後に》実は私…4月に教育委員会社会教育課に異動してきたばかりなのですが、そんな私がこの歴史ある新潟県公民館大会の担当だと聞いた時には…。右も左もわからない私に何ができるのか、果たして成功できるのか不安で不安で仕方ありませんでしたが、大会成功に向けて優しくご指導いただいた新潟県公民館連合会の田原事務局長様はじめ、心からのご支援ご協力をいただいた大会関係者の皆様、そして遠路遙々、日本海を渡り佐渡まで足を運んでいただいた参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

そしてこの大会が皆様の一生の記憶に残りますように…。

大変ありがとうございました。

特集

第62回新潟県公民館



第62回新潟県公民館大会
実行委員
事務局 土屋 貴伸

太陽が燦々と降り注ぐ7月15日(金)、第62回新潟県公民館大会は、「地域コミュニティの再生と社会教育の役割～社会・地域を切り拓く公民館をめざして～」を大会主題に掲げ、県内各地から約240名の参加者を得て、佐渡市両津文化会館において開催いたしました。佐渡で開催するのは、19年ぶり4回目となります。

今回の佐渡大会を迎えるにあたり、いろいろなハプニングあり、また大会まで各係ごとの綿密な打合せ、実行委員会や拡大実行委員会等を開催しながら進めてきました。

《6ヵ月前》…思いもよらぬ展開になるとは……

○第1回準備会(1月19日(水)13時～)を佐渡市役所両津支所におきまして開催しました。県公連 田原事務局長は、急遽体調不良(インフルエンザ?)のため欠席となり、出だしでつまづいた感はありますが、下越教育事務所 武石副参事のもと準備を進めました。今回は、顔合わせと県公民館大会までの流れ、役割分担・実行委員メンバー及び今後の日程の確認、大会要項・予算等の確認、講師の選定及び事例発表3地区の選定を行いました。

佐渡市は、平成16年3月に10市町村の合併により1島1市になりましたので今大会の諸準備については、佐渡市公民館を中心に各地区担当者に業務を割り振り、進めることにしました。

《2ヵ月前》…えっ!? 私が担当になってしまった…どうしよう。

○第1回実行委員会(5月17日(火)13時～)を佐渡島開発総合センター2階におきまして開催しました。今回は、田原事務局長と武石副参事から佐渡までお越しいただき開催することができました。今回の会議では、大会要項及び県大会のご案内について、今後の作業日程及び各係の事前準備の確認事項・大会当日のタイムスケジュール等について確認がされました。

○係主任・副任会議(5月30日(月)9時30分～)を金井コミュニティセンターにおきまして開催しました。今回の会議では、①送迎・駐車場係、受付・昼食係と②式典・接待係、会場・ステージ係に分けて大会当日までのスケジュール及び大会当日のスケジュール、必要物品等の確認をし、すぐに各係内での綿密な打合せをしてもらい第2

回実行委員会までに各係で取りまとめてもらいました。

《1ヵ月前》…もう1ヵ月前。もうすぐだけど……

○第2回実行委員会(6月17日(金)13時～)を佐渡島開発総合センター2階におきまして開催しました。田原事務局長が来るのに、私は2部研修のため欠席です。今回は、大会プログラム、大会予算(案)、大会参加証(兼昼食引換券)・領収書、観光パンフレット、表彰者記念品(伊藤赤水)、会場レイアウト、司会者台詞、各係スケジュール・準備品の進捗状況の確認がされました。



大会紀要の表紙写真



こちらも候補でした

《8日前》…何か忘れてるような気がする……

○拡大実行委員会(7月7日(木)13時～)を両津地区公民館大会議室におきまして大会役員25名が参加し行いました。今回は田原事務局長、武石副参事とも来ないということでちょっぴり寂しいですが、大会プログラム、大会予算、参加者状況報告、会場レイアウト、当日のシナリオ、各係スケジュール・準備品の最終確認と打合せをしました。

あとは、各係大会当日までに準備品を揃えるのみ。何か忘れてる気がする……

《2日前》…思い出せない……

先週、田原事務局長から講師のレジメ原稿が間に合わず、当日受付の配布資料という事態になりそうだと連絡あり…。原稿が出来次第送ってもらい私のほうで印刷をすることになりました。A4裏表3枚という話だったので余裕がありましたが実際は何と裏表15枚!! 残業覚悟を決めました。

《1日前》…リハーサル後、懇親会!楽しみにしてたのに……

今日は、午前:準備、午後:リハーサル、最終打合せという流れです。

田原事務局長が講師の石井山先生と大会当日に来島するというので武石副参事の指導のもとリハーサルを行うことになりました。県公民館大会を知り尽くした田原事務局長がいないのでかなり不安…。何とかリハーサルも終え、最終確認のため事務局 佐藤さんに電話連絡をしました。とその時、何か引っ掛かってたものが…参加者名簿を

実践記録

162

シリーズ

子どもの居場所づくりを通じた地域(まち)づくり

柏崎市 須田 貴子

◆活動経緯

比角地区では、中心部に古くからの住宅地があり、近年その周辺部に住宅やアパートが建てられ、中心部の人口減と高齢化が進んでいます。全国的な傾向でもある核家族化、近隣社会の日常的なふれあいの希薄化なども顕著に表れ、近年の地域社会への関わりに消極的な住民も多く、そのことが地域コミュニティの弱体化につながり、さらに課題解決を難しくしている面もあります。

そこで平成12年・13年と2年間に渡り学校完全週5日制施行前に子どもの安全安心な居場所をテーマとしたシンポジウムを実施。その後、小中学校PTAOBが中心となり平成14年に育成会の前身である「比角子ども育成応援団」を発足。放課後時における子ども達の安全・安心な居場所(時間・空間・仲間)づくりを目的とした活動を開始しました。

翌15年には、比角地区の青少年健全育成を目的に組織する団体及び支援する団体で組織した「比角地区子ども育成会」を設立。単位子ども会や青少年健全推進市民会議・民生委員・老人会・小中学校PTA・青年会・コミセン学習部等々の団体の代表の方々から入っていただき、会員数921名。理事19名で年間の活動を実施しています。



下校の見守り

◆居場所としてのコミュニティ

設立当初からコミュニティの協力でサークルの方々を利用しない15時30分～18時の間、コミュニティセンター(以下:コミセン)を開放、子どもの放課後時の安全な居場所としました。コミセンを拠点としてからは、お年寄りの集まる場・健診会場のコミセンではなく、誰でもが集える場として老若男女が気軽に立ち寄れる館となり、今では社会教育施設のコミセンが高校生や乳幼児連れの若いお母さんも多く利用していただける館となっています。

◆活動の状況

年間の活動として、交通安全教室や野外キャンプ、地域外交流「どんど焼き」なども実施しています。たくさんの方から協力していただき、活動スタッフとして高校生や大学生からも協力していただいています。

平成16年から始まった地域子ども教室(文



放課後子ども教室(比角)

部科学省委託事業)「放課後クラブ」を開設。今では毎月の案内を発行し、小学校だけではなく、時々、地区内の幼保育園・中学校にも配布しています。

平成19年からは放課後子どもプランの「放課後子ども教室」を開設。年数回ですが、小学校内での保護者会時やクリーン活動時での子ども預かり等、保護者の皆様から大変好評な活動となっています。

◆中越沖地震後からの取組

震災後から心のケア活動に取り組み、地域で活躍されている方々から参画していただき「比角はぐくみ運動実行委員会」を立ち上げ、家庭での教育を考える「きっかけ」に「命」「心」「食」を柱として掲げたポスターを作成しました。

同時に家庭教育に関わるアンケートも実施し、近年の核家族化で孤立した子育てをしていること、顔の見える形での地域の支え合いの力が弱くなってきたこと、保護者の就労時間が長く、家族が協力して子育てを担う環境が整っていない、などの現状が推察されました。これらのことなどから、平成21年に文部科学省「訪問型家庭教育相談体制充実事業」の委託を受け、家庭教育支援チーム「よろんごの木」を立ち上げ、子育て便利帳の発刊や企業体への出前講座、小中学校・企業・地域一体となったキャリア教育懇談会を開催しています。

◆連携と協働

常に色々なところとの連携を試み、子ども中心の活動としながらも、地域に支えられ、安全安心な地域社会にしたいと心から願いながら活動を展開しております。

今回の県の委託事業である「家庭教育支援民間提案型協働事業」もそのひとつです。企業経営者からも参画していただき、行政と協働で企画しました。

今後も色々な団体と連携を取りながら、未来の子ども達のために頑張りたいと思っております。

あなたも子ども達の笑顔と未来のため、地域の活動に参加することから始めてみませんか。

平成23年度 新潟県家庭教育支援民間提案型協働事業

	日時	内容	会場
①	8月21日 13時30分	パパの子育て ～ひとり親家庭の現状	柏崎エネルギーホール
②	9月17日 10時00分	家庭教育って、なに?	柏崎市民プラザ
③	10月24日 18時30分	企業が できる 子育て支援	柏崎市民プラザ
④	11月5日 13時00分	「あなたもやってみよう」 心のタッチケア	柏崎市民プラザ
⑤	11月23日 14時00分	仕事と子育てが 両立できる職場へ	柏崎市民プラザ

「元氣と笑顔を皆様へ」

栄凜會

三条市栄地区を中心に、よさこいの活動をしています栄凜會です。結成して8年になります。踊りが大好きな子ども達とお母さん&若者の集まりです。地域の祭りや福祉施設などで踊りを披露していますが、皆様の手拍子や心拍子と笑顔を見ているだけで、私達の方が元氣をもらいに行っている感じです。

栄凜會誕生のきっかけは、当時子どもが通っていた保育園の発表会でよさこいを教え披露した事で、親子揃って楽しめる事を見つけました。栄



町も合併する事になり栄の字は、残りました。家族の理解・協力があり続けられてきました。これからも、子どもの成長とともに皆様に元氣を与えられる会として頑張っていきます。

（三条市・栄凜會 水科美和子 記）



楽しみながらゆつぽん

版画するー会

版画するー会は平成一七年に公民館の講座から生まれたサークルです。サークル名は「急がずゆつぽん」と、「版画を刷る」をかけて「版画するー会」にしました。

会員は「できるかな」「続く

かな」と言いながらも、六年たちました。若かった(？)八人の会員も、今では六十代後半から七十代後半です。会には毎週水曜日で、一枚の作品には三ヶ月位かかります。作品は町の文化祭や阿賀町展に出品し、ふるさと学習館では常設展示をしています。今年には会発足五周年を記念して、カレンダーを制作し配布しました。今は秋の展覧会に向けての作品を制作中です。



阿賀町・版画するー会 責任者 本間 信昭 記

今年4月から公民館長として活躍されている、伊藤徳光さんを紹介します。

館長になられる前までは、刈羽村体育指導委員協議会の会長を永年にわたり務められ、スポーツの普及・発展に大きく貢献をされました。性格は明るくスポーツ万能で、いつも職場を盛り上げてくれる、体育会系のバドミントンが上手な館長です。

部下の話にもきちんと耳を傾けてくれたり、相談にも乗ってくれたり、的確なアドバイ

刈羽村公民館

館長 伊藤 徳光さん



素顔 拝見

スをしてくれる、真面目で信頼できる上司です。最近では、ペゴニア(花)の水やりが日課になり、毎日太陽とにらめっこ(;-;)しています。

いつまでも、「元氣ハツラツ」で活躍していただきたいと思います。

(財団法人刈羽村生涯学習振興公社

スポーツ振興兼文化振興係 岡庭 智子 記)

川口公民館に長髪をなびかせ颯爽と登場した期待の若手・大平卓真主事を紹介します。

川口公民館では唯一の20代。初めての土地、初めての公民館勤務ですが、持ち前の笑顔と愛嬌と行動力で、川口狭しと飛び廻り、生涯学習、社会体育、学校教育と幅広く活躍しています。

昨年度まで所属していた公園緑地課で鍛え上げられた経

長岡市川口支所地域振興課

教育支援係 主事 大平 卓真さん



験と植物の知識を活かし、花いっぱい計画を進行中。近い将来川口は花いっぱい！！

若い視点と発想で公民館にどんどん新風を吹き込んでもらえるものと期待しています。

(川口支所地域振興課 主査 横山 基文 記)

恵贈資料紹介

平成22年度社会教育実践研究センター調査研究報告書

都道府県・市区町村における社会教育事業の活性化を支援するため、全国的な社会教育活動の実態調査やプログラム開発等をまとめた報告書等が刊行されました。

① 公民館に関する基礎資料

内容は、公民館関係法令、通知・通達、施策、答申・建議、提言を網羅してまとめられています。巻末



の基礎データでは「公民館数、設置率推移」「公民館職員数」「講座状況」などがデータとして詳細にまとめられています。

② 公民館の事業及び運営の実態に関する調査報告書

内容は、公民館における学級・講座等の学習内容等の実態及び運営に関する実態等を紹介しています。①が法令等を中心にして「公民館運営審議会」「事業の評価」「先駆的事業事例」「公民館

国立教育政策研究所

が当面する問題」「公民館に求められていること」などを聞き取り調査をもとにまとめられています。



どちらの冊子も、公民館の運営上大変参考になる資料です。問い合わせは左記まで国立教育政策研究所社会教育実践センター企画課企画係 電話03-3823-0241

お元気ですか

近藤 敬 (新潟市)



ドリームズ・カム・トゥルー

以前、芸大の宮田学長(当時はまだ副学長だった。)をお訪ねした時、学長(というより亮平さんの方がずっと似合う人です。)がこんなことを言われた。「私は、若い時からずっと車のデザインをやりたいと思っていたのですが、最近、高級車のエンブレムのデザインを頼まれました。夢はかなうものです。」 「実は私も去年ラジオ番組の制作を手掛けることができました。」と思わず応えた。 というのも日曜日のFMで山下達朗の前の時間に『安吾・Sバー』という五分間のミニ番組の制作をすることができたから。 エンディングテーマにその昔、早稲田小劇場で一緒に芝居をした高尾剛のアルバムから曲をフィーチャーしたのだが、全く話題にならなかったのはちょっと残念。 今年、四月から当地に来て、夏祭り会場で、山羊やポニーの世話をすることができた。これも前からやりたかったことの一つ。 まだまだ夢は尽きない。 これからも「どりーむず・かむ・とぅるー！」

緊急

事務所をさがしています。

現在、当公民館連合会の事務所は「新潟市中央区川端町2-9」県林業会館の3階にありますが、「林業会館を建物老朽化のためとり壊すので来年3月末までに退去して欲しい」という連絡が管理者からありました。突然のことなので大変困っています。事務所の移転は県内外の関係者に知らせる必要がありますので、年内には移転先を決めて引っ越しの準備に入りたいと思います。 移転先は、新潟市内を探しています。どなたか空き事務所の情報がありましたら教えてください。

新潟県公民館連合会・田原 電話 025-224-6073

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会 会長(村上市長) 大滝平正

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内 TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

あ と が き

事務局長のつぶやき

猛暑の中、節電を余儀なくされた夏がようやく終わりそうです。その間、県内では集中豪雨による災害が発生しました。先日、被害の写真集を見たら、新聞やテレビなどで知っていたことより農作物や家屋な

どに甚大な被害があったことがわかりました。友人の妹さんが嫁いだ阿賀町・三川では床上・メートルも浸水して、泥出し作業がまだ続いている大変なこと。被害に遭われた方々のことを考えたら、節電で悪いなどと不満を言っていた自分を恥じています。(田原)